

## 「自分のため時間使って」

パラ陸上・石田選手 母校鶴沼中で講演

東京パラリンピックの陸上男子T47クラス（上肢障害）100mで日本記録を更新して五位入賞した石田選手（三）＝愛知学院大四年＝が二日、母校の鶴沼中（各務原市）で全校生徒約五百人に講演した。

400mで全国中学総体や全国高校総体に出場するなど実績を残したが、大学

入學直後に左腕の骨肉腫と診断された。医師から腕の切断を勧められたが固辞し、手術とりハビリを経てパラ五輪の出場をかなえた。東京大会では400mにも出場した。

陸上競技への復帰を諦めずに闘病生活を送った自身の体験を交え「なんとなく日々を過ごしている人も

つたいない。自分のためになるように時間を使ってほしい」と生徒たちに話した。

三年の鷺見健人さん（三）は「野球で肩の手術をした自分にとって、闘病して世界の舞台に立った先輩の話は響いた。前向きに頑張れば良い結果が出ると思った」と感想を述べた。

（酒井貴之）



生徒たちに語り掛ける石田選手＝各務原市の鶴沼中で